



特集「30年後の情報処理」の編集にあたって

苗村 憲司† 発田 弘† 春原 猛†

昨年に創立 30 周年を迎えた本会は、これを単なる記念行事に終わらせるのではなく、将来を見据えて学会そのもののあり方を見直し、活動の全体的活性化を図るための契機とする立場で諸施策の検討を進めてきました。学会誌編集委員会も、この一環として、本誌をより多くの会員にとって分かりやすく役に立つ機関誌とするため、抜本的改善を進めてきました。

本号はこの新方針に基づいて編集した第 1 号です。これを機会に、21 世紀に向けて国際化時代のわが国情報処理技術の高度化と発展に貢献する本会の理念を象徴するよう、表紙のデザインを一新しました。

変革の時には、今までの経緯とこれからの見通しを比較し、ベクトルの方向がどう変化するかを見定めることが必要です。30 周年記念大会と秋の全国大会で、情報処理技術の過去・現在そして今後の展望についての講演が行われたことは、この意味で大変有意義なことであったと考えられます。そこで、本号にはこの二つの講演の記録を掲載して会員の皆さまの参考にしていただくこととしました。

しかし、この 30 年間にわたる情報処理技術の大幅な進歩を顧みたと、今後ますます飛躍的な

発展を可能とするためには、もっと大胆なアプローチが必要ではないかと思われてきます。そこで、そのような飛躍を可能とするために少しでも役に立てばと考え、今から 30 年後の情報処理の姿を探ってみることとしました。

もちろん、30 年後を正確に予想することは不可能なことでしょう。しかし、飛躍的發展の萌芽が現在の学会活動の中に少しでも存在しているとしたら、それは基礎から応用までをカバーしさらには境界領域を含むさまざまな分野で会員の発表と率直な意見交換を行っている研究会の場ではないか。そんな考えから裏の各研究会の責任者の方々に寄稿をお願いすることとしました。

幸い、19 の研究会の主旨または幹事の方々からご多忙中にも関わらず貴重な原稿をお寄せいただき、この特集を組むことができました。この場を借りて厚くお礼を申し上げます。

また、巧芸社 大野様には原稿を読んだイメージを挿し絵にするという難しい注文を引き受けていただきました。会員の皆さまには、本文と挿し絵とご自身のイメージーションを加えてお読みいただき、ご感想・ご意見をご寄稿いただければ幸いです。

表

自然言語処理研究会	グラフィクスと CAD 研究会
データベース・システム研究会	数値解析研究会
人工知能研究会	ソフトウェア基礎論研究会
記号処理研究会	情報システム研究会
ソフトウェア工学研究会	プログラミング言語研究会
マイクロコンピュータとワークステーション研究会	情報学基礎研究会
計算機アーキテクチャ研究会	コンピュータと教育研究会
オペレーティング・システム研究会	アルゴリズム研究会
コンピュータビジョン研究会	人文科学とコンピュータ研究会
設計自動化研究会	音楽情報科学研究グループ
マルチメディア通信と分散処理研究会	仕様記述の効率的適用と評価研究グループ
ヒューマンインターフェース研究会	

† 本会理事 (学会誌担当)
本特集は、ソフトウェア WG の提案に基づき編集委員会全体の企画としたものです。